

事業所名

キッズランド扶桑

支援プログラム (参考様式)

作成日

令和7年 1月 17日

法人(事業所)理念		発達障害の特性を持った児童の学童期、中学・高校への成長過程を通じて本人の特性を自身で認識できるようになることで就労への訓練を目指せる支援を提供する事業所でありたい。						
支援方針		集団活動と個別支援とのバランスを取りながら、コミュニケーションスキル、日常生活スキル向上、運動と感覚統合、学習支援に力を入れて保護者との連携を常に深めることでお子様の成長の手助けを目指す。						
営業時間		11時	30分	18時	50分	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフスキルトレーニング：身だしなみや食事マナー等、生活上のスキルを習慣化し自立した生活ができるようサポートします。 ・ 健康管理：体温チェック、手洗いなどの基本動作を習慣化を通じて健康管理をします。 ・ 生活リズムの確立：スケジュールの流れに沿った行動を身に着ける練習を通じてスケジュール管理の重要性を学んでいく。 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体機能認知プログラム：新聞棒回しのトレーニングを通じて認知機能の向上をはかる。 ・ 感覚統合療法：平均台、ボルダリングなどの器具を用いてバランス感覚を養う。 ・ スポーツ活動：ふうせんバレー、公園遊びを通じて全身の筋力を鍛え、スポーツのルールを学ぶことで遊びの楽しさが増すことを経験するよう支援する。 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知スキルの向上：パズルや知育ゲームなどを通じて楽しく遊ぶことを通じて認知機能を強化し学習能力向上の手助けになるよう支援を工夫する。 ・ 学習支援：各児童の特性にあった支援アプローチを行うために保護者、学校との連絡を密にして効果的な学習支援ができるようにする。 ・ 行動療法：ダメ出しを排除したポジティブな行動支援を目指し、児童自身が行動を振り返る習性が身に着くようにする。 ・ 問題解決スキル：表出した問題に対してグループで話し合う機会を通じて自分で問題を解決する練習をする。 						
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションスキルの向上：たくさん遊ぶ環境を作って、遊びの中で友達と交流したりぶつかったりする中で自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを察する練習をする。 ・ グループ活動：団体活動プログラムの内容を充実させ、団体戦で勝ったり負けたりする経験をすることで。 ・ 非言語コミュニケーション：ジェスチャーや表情、アイコンタクトの練習とそれを通じての言葉以外でのコミュニケーション方法を学ぶ。 						
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルスキルトレーニング：挨拶や自己紹介、ありがとうやごめんなさいを適切にいうことの大切さを目的意識的に学ぶ。 ・ 役割遊びとロールプレイ：日常生活や社会的な場面、特に仕事をする場面を設定して宿題や活動が将来の職場での人間関係をうまく保つ練習だということを認識させる。 ・ 自己肯定感の育成：ダメ出しをせず、宿題や活動の具体的な支援の質を高める工夫をすることで、児童が上達の喜びを味わいモチベーションを持てるよう常に配慮していく。 						
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎時にはその日の児童の様子をできるだけ詳しく伝え、学校や家庭での様子も聞く機会をたくさん持つ。 ・ SNSなどを通じて常に相談体制を整え、子育て支援の質を高めていく。 			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学、就職のサポートができるようになるために、いろんな学校や機関の情報をキャッチして、保護者に伝えることで児童の進路について見通しをもって対処するお手伝いをしていく。 	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の施設利用：図書館、公園、児童館などの施設を利用し、地域資源を活用する。 ・ 緊急時の地域連携、緊急支援ネットワークを構築し、災害時対応力を強化 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> 定期的な研修を通じて新しい情報に接して児童の支援に具体的に役立つものにするを念頭におき、職員間で切磋琢磨していく。また、会議を充実させることで評価とフィードバックを繰り返しながら資質向上に向かう。 	
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別学習指導：普通級に通うことで大きな困難を抱える児童への特別学習指導 ・ 社会体験活動：工場見学(長期休暇中の機会を観ながら) 						